

特集 うらん町の方言



ゆうべ降ってた雨もあがって
まあずええ天気だに

ふんとにのお、おかげで
洗濯物も片付いたでござっばいの

そうだのお、そんだけえがうちの
おうどはまだじゆるいつけだよ

おうどがじゆるい
ごせっばい
この言葉の意味がわかりますか？

皆さんは日常生活の中で方言を使っていますか。

写真のおばあちゃんたちの会話に出てくる「ごせっばい」とは「すがすがしい」、「おうど」は「庭」、「じゆるい」は「ぬかるむ」という意味の方言ですが、全部分かりましたか。

方言は標準語とは違い、地域独自に発展してきた言葉で、先人たちの暮らしが色濃く反映されています。

私たちは遠州地方に伝わる方言を普段の生活でどれだけ使っているのでしょうか。

今回は遠州地方、特に御前崎市に伝わる方言を紹介していきます。

方言ができた理由

そもそも方言は日本の複雑な地形が関係して誕生しました。

昔は険しい山や流れが急な川で人の往来が遮られ、他の土地の人と頻繁に交流することが困難でした。

外部からの情報が入りにくく中で、便利な言い方やその土地独自の言い方が生まれ、その言葉が地域の中で広まり根付くことで方言となったのです。

方言の魅力

同じ土地の人同士で話す場合

は、方言で話した方がよりいっそう相手に気持ちが伝わるという良さがあります。

時代の流れと共に方言は徐々に使われなくなり、方言が分からない人も多いでしょう。

「あんなぎつと。おな人はいらないに」「この子はすずない子だねえ」なんて会話も、少し前までは日常会話で聞かれた言葉でしたが、今ではあまり聞かれなくなりました。

方言の中には少しぶっきらぼうに聞こえる言葉もありますが、どの言葉も親しみや愛情が込められた言葉です。

「うわあ、お母さん、今日の晩ご飯はおごっつおだね」

晩ご飯のごちそうを見て喜んでいる子どもの笑顔が思い浮かんでできませんか。

テレビなどで使われる標準語が一般的になってきていますが、私たちの土地に昔から伝わる方言を大切にしていきたいですね。

